

動物看護師統一認定機構推奨コア・カリキュラム：専修学校及び大学の対応表

2015年度出題範囲			専修学校			大学			
分野	授業科目名	内容（授業科目）	所属教科（授業科目）例	含まれるもの（内容）例	キーワード（履修項目）	授業科目	主な内容	全体目標	
動物のからだの構造と機能	動物形態機能学	形態機能学概論	動物形態機能学	概論	細胞の構造(染色体)、細胞組織、遺伝様式、体液と尿、生体恒常性	動物形態機能学	形態機能学概論	動物の生命維持の仕組みがどのようになっているかを解剖学、生理学、生化学、免疫学の面から学び、生命体としての動物を理解するとともに病的状態の動物について学ぶ基礎を確立する。また、基礎栄養学として栄養素や摂食行動、咀嚼、嚥下、消化と吸収、代謝の比較生理学について重点的に習得する。繁殖に関わる解剖生理学を学び、妊娠分娩の過程に関する基礎知識を修得する。	
		解剖学		比較解剖学	皮膚、筋・骨格、脳と神経、感覚器、循環器、呼吸器、消化器、内分泌とホルモン、生殖器、歯		解剖学		
		生理学		血液学	血液成分と働き		生理学		
		生化学	免疫学	形態機能	臓器(卵巣、子宮、精巣含む)の形と機能		生化学		
		免疫学	動物繁殖学	概論	性周期、繁殖、交配		免疫学		
		繁殖学		分娩・新生子	妊娠、胎子発達、分娩、帝王切開、新生児、産褥期の異常		繁殖学		
		栄養学		遺伝学	遺伝性疾患、計画交配		基礎栄養学		
動物の疾病と予防、及び回復	動物病理学	病理学	動物病理	病理学概論	発病のメカニズム、変性、化膿、萎縮、肥大、過形成、浮腫、炎症、腫瘍	動物病理学	病態生理学	様々な疾病がもたらす生体の変化について学び、病的状態を理解するための基礎を修得する。それを基に、病的刺激に対する細胞傷害と物質代謝異常、細胞の死、細胞の適応、組織の再生と修復、循環障害、炎症、生体防御反応、腫瘍、先天異常について理解する。	
		病態生理学					病理学		
		遺伝子病理学					遺伝子病理学		
	動物微生物学	細菌	動物感染症学	総論	寄生とは	動物微生物学	細菌学	動物をとりまく環境と微生物の関係を理解するとともに、各種微生物の分類、生物学の特徴、物理化学的特徴、病原微生物と疾病、微生物制御法および微生物検査についての基本的な知識を修得し、衛生管理や微生物リスク低減措置に展開可能な知識基礎を築く。	
		ウイルス		内部寄生虫	主な種類(原虫、吸虫、条虫、線虫)感染経路		ウイルス学		
		真菌		外部寄生虫	主な種類(節足動物)と感染経路		真菌学		
	動物感染症学	寄生虫病学	病原体・衛生管理	微生物	細菌の構造と分類、細菌の増殖と耐性、ウイルスの構造と分類、真菌の構造と分類	動物感染症学	動物寄生虫病学	動物をとりまく環境と寄生虫の関わりについて理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基本的な基礎知識を修得するとともに、その予防対策や制御に活用できる基礎を築く。	
		感染症疫学		概論	病原体の種類、感染の成り立ち、治療法		動物感染症疫学	細菌、ウイルスおよび真菌による動物の感染症について、病因と宿主域、感染と伝播様式および感染症の成立要因などの疫学的理解、症状と生体防御などの病態変化、さらに診断と予防・治療法などの感染症対策に関する知識を修得する	
		動物感染症学		ワクチン	ワクチン、予防				
	公衆衛生学	公衆衛生学	公衆衛生学	概論	公衆衛生と獣医療の関わり、公衆衛生と疾病との関わり、公衆衛生と環境との関わり	公衆衛生学	公衆衛生学	人と動物を取り巻く社会環境の変化に対応できる知識を身につけ、疾病予防、健康の維持・増進について関連業務においてその必要性や方法について明確に理解する。	
		食品衛生学		人獣共通感染症	主なズーノーシス		食品衛生学		
		環境衛生学		滅菌・消毒	院内感染防御、滅菌法、消毒薬の特徴		環境衛生学		
		人獣共通感染症		動物免疫学	感染症とその対策		人獣共通感染症学		
	動物薬理学	薬理学（総論）	動物薬理学	薬理学	作用機序、薬物耐性、薬物アレルギー、有害作用、中毒、プラセボ効果	動物薬理学	薬理学（総論）	動物の疾病の治療や診断に用いる薬が作用する過程を理解するために、対象疾患の病態、代表的な治療薬の薬理作用、機序、臨床応用および副作用を学ぶ。また、薬物の体内動態、代謝、排泄に関する基礎知識を、動物種差を考慮して修得する。	
		薬理学（各論）		薬物学	主要な薬剤の特性、主な化学式		薬理学（各論）		
	動物の行動	動物行動学	基礎動物行動学	動物行動学	概論	動物の家畜化	動物行動学	基礎動物行動学	様々な動物種について、それぞれの種に特有な、あるいは種を超えて共通する行動様式と行動の発現機序、問題行動の原因と対処、予防法を学ぶ。動物福祉に配慮した飼育管理や獣医療を実施するための基礎となる考え方を身につけるとともに、問題行動への対処や予防に必要な知識を修得する。
			学習理論		大学・ネコ学	犬と猫の発生、生体、種類の特徴		学習理論	
臨床行動学			行動の意義と機構		行動発達過程、行動の周期性(内分泌、ホルモン)、生得的行動、習得的行動	臨床行動学			
			しつけ・トレーニング		学習理論、動機づけ、社会化、排泄、カーミングシグナル、パピークラス				
			問題行動		排泄問題、攻撃性、恐怖・不安				
動物関連法規	動物医療関連法規	獣医事行政法規	動物医療関連法規	獣医師法		動物医療関連法規<総論>	動物看護職の社会的立場と職務に伴う責任	高度獣医療の現場において、動物看護師には主体的に考え適切な動物看護を提供する能力が求められる。動物看護専門職としての社会的責務を自覚するとともに、動物看護師としての職業意識や価値観の形成をめざす。	
		家畜衛生行政法規		狂犬病			獣医事行政法規		動物関連法規について知り、その中に動物看護を位置づけてとらえる。また、広く動物や環境に関する法規を学ぶことを通じて、これらに対する関心と理解を深め、さらに社会へと視野を広げていくことを目指す。
		公衆衛生行政法規		動物愛護及び管理に関する法律			家畜衛生行政法規		
		薬事行政法規		鳥獣保護法			公衆衛生行政法規		
		環境行政関連法規		薬物関連法規	薬(向神経薬、麻薬、毒劇物)の保管、薬事法など		薬事行政法規		
				家畜伝染病予防法			環境行政関連法規		
				その他動物関連法規	補助犬法、動物取り扱い業者				
				その他法規	個人情報保護、労働基準、労働安全衛生、育児介護、健康保険				
人と動物の関係	動物人間関係学	動物介在活動論	動物人間関係学	HAB、AAA、AAT、AAE	HAB、AAA、AAT、AAEなどの概論	動物人間関係学	動物介在活動論	動物が人間社会において果たしている多面的な役割とその背景について知り、人と動物の関わりに関する歴史的、そして現在における心理学的・社会的側面の全体像を理解する。また、動物介在活動・療法・教育、現在における使役犬の代表である身体障害者補助犬の現状と効果について理解する。	
		人と動物の共生論					動物人間関係論		
	動物福祉論	動物福祉理論	動物福祉論	獣医療倫理	生命倫理、インフォームドコンセント、安楽死	動物福祉論	動物福祉理論	獣医療、動物愛護、動物福祉、社会奉仕などの分野に動物看護師としての貢献するうえで必要な基本理念としての動物福祉の考え方を理解する。人間社会における動物の取り扱いに関する考え方と、それらに影響する要因、および様々な実践的活動について理解する。	
		伴侶動物福祉		動物福祉	5つの自由		伴侶動物福祉		
	産業動物福祉				産業動物福祉				
	実験動物福祉				実験動物福祉				

2015年度出題範囲			専修学校			大学			
分野	授業科目名	内容(授業科目)	所属教科(授業科目)例	含まれるもの(内容)例	キーワード(履修項目)	授業科目	主な内容	全体目標	
動物の健康管理	動物飼養管理学	伴侶動物学(エキゾチックアニマルを含む)	動物健康管理	飼育管理、日常手入れ	適正飼育、食へてはいけないもの、事故防止	動物飼養管理学	伴侶動物学	人間社会に関わりの深い様々な動物種(伴侶動物、産業動物、実験動物)の分類学的、解剖学および生理学的特徴を学習する。また、動物種ごとおよび品種ごとの飼養管理、ライフステージごとの飼養管理について理解する。	
			飼養管理学(エキゾチックアニマル含む)	ウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットなど	生態、飼育管理、取り扱い		産業動物学		
		産業動物	実験動物	実験動物	主な種類、概論、倫理、3R		実験動物学		
			動物飼育実習 I	コンパニオンアニマルの適切な飼育法	健康動物の適切な飼育法、ハンドリング		産業動物学		
			動物飼育実習 II	動物飼育に関する技術の実践と応用	健康動物の適切な飼育法、ハンドリング		実験動物学		
動物飼育実習 II	動物飼育に関する技術の実践と応用	健康動物の適切な飼育法、ハンドリング	実験動物学						
動物看護の基礎	基礎動物看護学	動物看護の概念 動物看護過程の展開 動物看護学の成立と特徴	動物看護学	看護学概論	看護倫理、概念	基礎動物看護学	動物看護の基本となる概念	実践的な動物看護学を学ぶ前に、その基礎となる概念についての理解、さらには様々な動物看護活動の場についての理解、他職種との関連において動物看護の果たす役割についての理解を修得する。	
			動物看護学	動物の看護	看護過程、POS		動物看護過程の展開		
			動物看護学	終末期患者動物の看護	グリーフケア、ベットロス、QOL、死後の取り扱い		動物看護学の成立と特徴		
			動物看護学				動物看護の役割と機能を支えるしくみ		
	基礎動物看護技術 I	動物の健康の保持 衛生・安全管理	基礎動物看護技術 I	基礎動物看護技術 I			基礎動物看護技術 I	動物の健康の保持	動物のくらしや様々な環境条件を踏まえた上で、動物の適切な飼育方法を理解するだけでなく、疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼育管理するための知識を修得する。
				基礎動物看護技術 I				衛生・安全管理	
	基礎動物看護技術実習 I	基礎動物看護技術実習 I の内容に関する実習	基礎動物看護技術実習 I	基礎動物看護技術実習 I			基礎動物看護技術実習 I	基礎動物看護技術 I の内容に関する実習	動物のくらしや様々な環境条件を踏まえた上で、動物の適切な飼育方法を理解するだけでなく、疾病予防も含めて動物の健康を保持し、衛生的かつ安全に飼育管理ができるよう具体的な看護技術を修得する。
				基礎動物看護技術実習 I				基礎動物看護技術 I の内容に関する実習	
				基礎動物看護技術実習 I				基礎動物看護技術 I の内容に関する実習	
	基礎動物看護技術 II	基本技術 基本的日常生活援助技術 診療に伴う技術	基礎動物看護技術 II	基礎動物看護技術 II	診療補助、輸液管理、主な処置法、シリンジの扱い	体重測定、体温測定、保定、バイタルサイン測定、創傷管理、包帯法、薬法、吸引	基礎動物看護技術 II	共通基本技術	多岐にわたる動物看護技術を見直し、それぞれの実践に必要な知識および論理的思考を修得する。これらの技術が安全と安楽に基づいた動物看護を实践するためにいかに必要なのかを理解し、診療や治療・検査における様々な処置等を適切に実践あるいは補助するために必要な知識を修得する。
基礎動物看護技術 II				衛生管理、調剤	院内清掃、医療廃棄物処理、各種投薬法、薬の計算と調剤	基本的日常生活援助技術			
基礎動物看護技術 II				グルーミング	グルーミング(爪切り、肛門囊絞り、耳掃除)、被毛の手入れ	診療に伴う技術			
基礎動物看護技術実習 II	基礎動物看護技術 II の内容に関する実習	基礎動物看護技術実習 II	看護技術の実践と応用			基礎動物看護技術実習 II	基礎動物看護技術 II の内容に関する実習	基礎動物看護技術 II で得た知識を基に、その知識に裏付けられた動物看護技術を修得する。特に診療や治療・検査における様々な処置等を適切に実施あるいは補助するために必要な技術を修得する。	
基礎動物看護技術実習 II			基礎動物看護技術 II の内容に関する実習						
基礎動物看護技術実習 II			基礎動物看護技術 II の内容に関する実習						
動物看護の実践	動物外科看護技術	外科診療に伴う技術	動物外科看護実習 I	手術関連業務	手術準備、術着・手袋の着用、糸の種類、器具の種類と目的、手術助手	動物外科看護技術	外科診療に伴う技術	動物への外科的治療を補助するために必要な基礎知識を学び、その知識に裏付けられた外科看護技術を修得する。術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、論理的で安全な手術のための援助技術に関わる知識を修得する。	
			動物外科看護実習 I	術前術後の看護	前処置、術野の準備、術創保護、リハビリテーション、疼痛管理		外科診療に伴う技術		
			動物外科看護実習 I	麻酔・鎮痛	麻酔薬、鎮痛薬の準備、動物の看護		外科診療に伴う技術		
			動物外科看護実習 I	麻酔モニタリング	装置の扱いと装着、評価		外科診療に伴う技術		
	動物外科看護技術実習	動物外科看護技術の内容に関する実習	動物外科看護技術実習 II	外科に関する技術の実践と応用			動物外科看護技術実習	動物外科看護技術の内容に関する実習	動物外科看護技術学で得た知識を基に、その知識に裏付けられた動物外科看護技術を修得する。特に術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、論理的で安全な手術のための援助技術を修得する。
	臨床検査学	検査の基礎 検体検査 生体検査	動物臨床検査学	動物臨床検査学	検体検査	便、尿、血液、細胞など	動物臨床検査学	検査看護の基礎	臨床現場で実施されている様々な臨床検査の原理、方法ならびに意義を理解する。検体や測定機器の正しい扱い方を修得し、所見の記録方法についても修得する。
				動物臨床検査学	生体検査	レントゲン(放射線の基本性質、防護、発生装置の仕組みと管理)、ECG、超音波、内視鏡・MRI・CTの特徴		検体検査	
				動物臨床検査学	生体検査	レントゲン(放射線の基本性質、防護、発生装置の仕組みと管理)、ECG、超音波、内視鏡・MRI・CTの特徴		生体検査	
	臨床検査学実習	動物臨床検査学(検体検査)の内容に関する実習 動物臨床検査学(生体検査)の内容に関する実習	動物臨床検査学実習 I	動物臨床検査学実習 I	検体処理	処理法、保管	動物臨床検査学実習	動物臨床検査学(検体検査)の内容に関する実習	臨床現場で実施される代表的な検体検査と生体検査について、使用する機材や準備の方法を理解し、実施または補助できる技術を修得する。
				動物臨床検査学実習 I	検査機器の取り扱い	顕微鏡、各種検査機器		動物臨床検査学(生体検査)の内容に関する実習	
動物栄養管理学	動物の食生活の援助技術 動物の疾病と栄養管理	動物栄養学	動物栄養学	血液検査・尿検査・便検査・細胞診・微生物学的検査	免疫学的検査、顕微鏡学的検査、標本作製、正常と異常の違い、クロスマッチ、培養	動物栄養管理学	動物の食生活の援助技術	6大栄養素、ライフステージ、臨床的な栄養管理について理解する。健康状態、ライフステージ別、疾病時のエネルギー要求量を理解し、その要求量の算定式を修得する。ペットフードの種類、原料、製造方法、保存方法および法らの概要を理解する。栄養補助・管理が必要な主要疾患の病態を理解し、栄養管理技術の理論を理解する。	
			動物栄養学	レントゲン、超音波、ECGなど	防護、取り扱い、準備		動物の疾病と栄養管理		
			動物栄養学	検査技術の実践と応用			動物の疾病と栄養管理		
動物栄養管理学実習	動物栄養管理学の内容に関する実習	動物栄養学実習	ペットフード市場	受容と嗜好性、ペットフードの取り扱い		動物栄養管理学実習	動物栄養管理学の内容に関する実習	動物の栄養管理に関わる手技・技術を修得する。栄養指導(エネルギー要求計算、食品成分、給餌方法)について実践する。疾病動物に対する栄養管理を獣医師に提案でき、飼い主への説明能力を習得する。	

2015年度出題範囲			専修学校			大学			
分野	授業科目名	内容(授業科目)	所属教科(授業科目)例	含まれるもの(内容)例	キーワード(履修項目)	授業科目	主な内容	全体目標	
動物看護の実践的応用	応用動物看護学	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護	動物入院管理	ケア、看護計画	病床管理、観察、排泄、食事、メンタルケア	臨床動物看護学総論	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護	動物の健康状態を、健康時、急性期、慢性期および終末期の4病態に区分して、それぞれの健康レベルに応じて必要とされる様々な診断・検査の補助ならびに具体的な看護技術について理解する。また、周術期の看護の特性と症状別の看護の特性を理解し、具体的な看護援助を理解する。	
		経過に基づく動物看護		看護記録	アセスメント		経過に基づく動物看護		
		周術期の看護		治療・処置別による看護	疼痛管理、ICU、伝染病		周術期の看護		
		呼吸機能障害を持つ動物の看護	動物疾病看護学	概論	バイタルサイン、病的变化		症状別の看護		
		循環機能障害を持つ動物の看護		内科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法	呼吸機能障害を持つ動物の看護			
		栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護		外科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法	循環機能障害を持つ動物の看護			
		内部環境調節障害を持つ動物の看護		皮膚疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法	栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護			
		生体防御機能障害を持つ動物の看護		眼科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法	内部環境調節障害を持つ動物の看護			
		感覚機能障害を持つ動物の看護		歯科疾患	主要疾患の機序、症状、検査法、治療法	生体防御機能障害を持つ動物の看護			
		神経・運動機能障害を持つ動物の看護		臨床動物看護学	概論	経過・症状に応じた看護	感覚機能障害を持つ動物の看護		
		排泄機能障害を持つ動物の看護	内科疾患の看護		主な疾患に応じた看護、疾病予防	神経・運動機能障害を持つ動物の看護			
		繁殖機能障害を持つ動物の看護	外科疾患の看護		主な疾患に応じた看護、疾病予防	排泄機能障害を持つ動物の看護			
		がん動物の看護	皮膚疾患の看護		主な疾患に応じた看護、疾病予防	繁殖機能障害を持つ動物の看護			
			眼科疾患の看護		主な疾患に応じた看護、疾病予防	がん動物の看護			
		歯科疾患の看護	主な疾患に応じた看護、疾病予防						
		高齢動物看護	幼齢動物・高齢動物管理	在宅・訪問管理	加齢による身体的特徴、認知障害、褥瘡予防、徘徊改善、夜鳴き改善	高齢動物看護			
		幼齢動物看護		哺育	排泄援助				
		応用動物看護学演習	機能障害を持つ動物の看護のバーシミュレーション				臨床動物看護学演習	機能障害を持つ動物の看護のバーシミュレーション	機能障害を持つ動物の看護への看護実践をシミュレートする。
		総合看護実習	基準を満たした動物病院での実地実習	総合臨床実習	動物病院実習		総合臨床実習	基準を満たした動物病院での実地実習	動物病院で働く他職種との連携、獣医療チームにおける動物看護師の役割を理解し、健康障害をもつ動物を受容し、対象の特性と動物看護の必要性への理解を深めるとともに、動物看護過程を展開する基礎能力および動物看護師として必要な態度を身につける。
				救急救命対応	エマージェンシーとは	トリアージ、生命徴候、救命法(CPR)			
				救急救命疾患	中毒、誤飲誤食、外傷、熱中症、溺水、感電				
				クライアントエデュケーション	疾病予防、避妊去勢、健康管理、衛生管理指導	飼い主指導、啓蒙			
			院内コミュニケーション※演習含む	受付、クライアントコミュニケーション	カルテ作成、退院手続、薬の説明、会計業務、問診、電話対応				